

Part 2

通信系の心掴んだネットワークカメラ

商材編

今、何が売れているのか。売上伸長への貢献度、今後への期待度いずれにおいても、昨年に引き続いてネットワークカメラが多くの支持を集めた。無線LAN機器はディーラーの期待が高い反面、“扱いにくさ”が窺える結果に。昨年調査との比較から“旬の商材”を探る。

まず、アンケートに回答した152社が取り扱っているPBX / ビジネスホンのメーカーを図表3-1に示した。オレンジの棒グラフが、「現在取り扱っている」と回答したディーラー数を表し、そのうち「最も取扱量が多い」と回答した数を赤の棒グラフで表示し

ている。

取り扱いメーカーの回答数は総計で432となった。大半のディーラーが複数メーカーの商品でビジネスを行っていることがわかる(平均は、2.8メーカー)。なお、1メーカーのみを取り扱っているディーラーは、わずか12社

だった。

また、今後取り扱ってみたいメーカーについて聞いた質問では、シスコシステムズ、NEC / NECインフロンティアの2社が多くの回答を集めた(図表3-2)。

シスコシステムズは昨年も、この質問でダントツの回答数を獲得している。閉塞状況を打開するために、国内メーカーにはない“何か”を求めるディーラーの意識が表れた結果と推測できる。

また、NEC / NECインフロンティアは、すでに取り扱っているディーラーが半数近くを占める中で17票を獲得した。この点も、特筆すべき結果と言えるだろう。

同社は今年に入り、新型ビジネスホンと、IP-PBX新製品2機種のリリースを次々行い、UNIVERGEシリーズを刷新している。その効果として多くのディーラーの関心が集まっているようだ。

図表3-1 PBX/ビジネスホンの取り扱いメーカー

